

2024年度の事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

NPO 法人 Sharing Caring Culture

1 事業の成果

■外国人の子育て支援事業：多文化親子交流会ほか、アートでつながるコミュニティ型プロジェクト「クリエイティブ・マンデーズ」を実施

多文化親子交流会では、スペイン出身の父親同士が偶然出会い、パパ友になるなど、親同士がつながる場にもなった。今年度は、孤独な育児に陥りやすい外国人の親、学校になじめない子どもなど、多様な人たちの拠り所となる活動として、「クリエイティブ・マンデーズ」というアートや手芸などの創作活動によるケア活動を立ち上げ、月曜日に実施した。参加者は21カ国、延251名（日本人101名、外国出身者150名）と外国出身者の母親が多く集まった。

■子どもの育成支援事業：多文化理解教育プロジェクト及び社会的擁護児童向け子ども多文化交流プログラム

昨年に続き、東急子ども応援プログラムより助成をいただき、今年度は、「こどもまんなか多文化教育プロジェクト」を実施。これまでは、多文化を紹介する体験型のイベントを多く開催してきたが、楽しいという体験で終わってしまうことに課題感を持っていた。外国ルーツの子どもたちが日本の学校でも居心地よく過ごせるようにするためには、ホスト社会側の日本人児童の多文化理解が必須であることから、学童期の児童が人権教育の観点から違いを尊重する態度を育むことが重要と考え、今年度は、学童期の児童や生徒がプログラムの受け手になるのではなく、主体的に課題に取り組むことで自己理解や他者理解が深まるプロジェクトへとシフトした。

また、アイネット地域振興財団の助成をいただき、社会的擁護の児童に子ども多文化交流事業を提供。インド、エクアドル、ナイジェリアのメンバーとの多文化交流プログラムを実施。子どもたちは外国出身者との交流を楽しみ、多様な文化や人への興味を促すことができた。さらに、障害のある子どもを包摂する親子の居場所、青葉区の「あおばおもちのひろば」で多言語おはなし会を実施した。

■多文化共生協働事業：図書館、大学、美術館、外資系企業など多様な主体との協働事業の増加

東京都品川区、中野区での外国語のおはなし会に加えて、寄付金によって、横浜市立都筑図書館、港北図書館、神奈川図書館、大田区立羽田図書館でも外国語のおはなし会を開催した。今年度は、さらに教育現場での裾野が広がり、東洋大学や早稲田大学での多文化共生ワークショップのほかに、神奈川大学附属中学校からも依頼があり、講義を担当。さらに、横浜美術館からの依頼で横浜トリエンナーレのアクセスプログラムにも協力。多文化の親子がダンボールで遊び場をつくるイベントの企画運営を担った。11月には、都筑区に本社を構えるボッシュ株式会社の外国人社員向けに防災ワークショップを実施。12月には、「ボッシュであったかクリスマス」というクリスマスイベントの企画運営を受託し、英語とやさしい日本語でのチラシ制作及び広報を担当。定員100名に対し206名の申込があり、ハギレや発泡スチロールの端材を利用したクリスマスリースやオーナメントづくりのイベントは大盛況だった。

■「市長と語ろう！」で横浜市長と対談、こども家庭庁及び、神奈川県から団体の活動を表彰

6月4日に横浜市長と「親子の居場所～インクルーシブな環境づくり」をテーマに対談の機会をいただき、外国出身のメンバーも同席した。また、11月にこども家庭庁から令和6年度第2回未来をつくるこどもまんなかアワードこども・若者活動奨励章を受賞。さらに3月に神奈川県から令和6年度「かながわボランティア活動推進基金21」を受賞。任意団体として活動を始めて10年目になる節目の年にこれまでの歩みを認めてもらい、励みになった。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

(1) 異文化交流事業

ア 外国籍の子育て支援事業

・内 容

外国出身者と日本人保育士をファシリテーターとした多文化親子交流会をこれまで平日に開催していたが、中央ろうきんによる助成事業（2024年4月～2025年3月）として、就業している母親や父親が参加できるよう週末に開催。加えて月曜日に新たに「クリエイティブ・マンデーズ」というコミュニティ型のプロジェクトを始め、アートや手芸などの創作活動によるつながりづくりに取り組んだ。

・実施日時 ー多文化親子交流会 / 年間 11 回

ークリエイティブ・マンデーズ / 年間 24 回

・実施場所 主に横浜市青葉区（たまプラーザ地域ケアプラザ、山内地区センター）、都筑区（都筑区社会福祉協議会かけはし都筑、都筑多文化・青少年交流プラザ、北山田地区センター）

・従事者数 6 人

・受益対象者 主に未就学児を育てている外国籍の親子及び日本人親子 のべ親子 251 人参加

・支 出 500,260 円



↑多文化親子交流会



↑クリエイティブ・マンデーズ「スクラッチアート」

イ 子どもの育成支援事業

・内 容

これまでの多文化交流から今年度は多文化理解教育へと重点おき、東急子ども応援プログラムの助成金により、当団体の外国出身メンバーの子どもと青葉区の学習塾の中高生や都筑区の学童の児童がかかわる協働プロジェクトを実施。最初に課題を共有した後、一年にわたって学童児童は、外国ルーツの児童をテーマにした動画制作。塾の生徒はワークショップで使用する対話カードの制作に取り組んだ。尚、小学生が制作した動画は、かながわ・わがまち映像祭で優秀賞を受賞した。高校生とともに制作した対話カードは、今後、中学生、高校生向けの多文化共生をテーマにした探究学習の授業で使用する予定。また、今年度は、アイネット地域振興財団の助成により、社会的擁護の児童への子ども多文化交流プログラムを実施。川崎愛児園にて、3歳から12歳までの子どもたちに世界旅行をテーマに多文化に親しむ機会をつくったほか、長年障がいのある児童の支援に携わってきた「あおばおもちゃのひろば」にて多言語おはなし会を開催した。

・実施日時 ー多文化理解教育プログラム：年間 7 回（青葉区学習塾「スターグローブ」3 回、都筑区学童「認定 NPO 法人あっとほーむ」4 回）

ー子ども多文化交流事業：年間 6 回（児童家庭支援センターかわわ 1 回、川崎愛児園 3 回、あおばおもちゃのひろば 2 回）

・実施場所 ー多文化理解教育プログラム：主に横浜市都筑区（認定 NPO 法人あっとほーむ、中川西地区センター）青葉区（山内地区センター、横浜市男女共同参画センター横浜北）

ー子ども多文化交流事業：児童家庭支援センターかわわ（都筑区）、川崎愛児園（川崎市宮前区）、青葉区福祉保険活動拠点ふれあい青葉（青葉区）

・従事者数 多文化理解教育プログラム 6 人 子ども多文化交流事業 4 人

・受益対象者 ー多文化理解教育プログラム：外国籍の児童及び日本人の児童生徒 のべ 55 人参加

一子ども多文化交流事業：のべ 85 人参加

・支 出 1,361,966 円



↑学童児童による動画制作



↑学習塾の中高生とのカード制作

(2) 地域の多様な主体が連携・協働する多文化共生促進事業

ア 外国籍住民による子育て情報冊子 OYACO(おやこ)制作事業

・内 容

2023 年度より、当団体が出版する子育て情報冊子 O Y A C O をホームページから P D F にてダウンロードができるようにし、二次元コードを掲載したチラシを作成。冊子の印刷費のコスト削減とペーパーレスを図るため、A4 サイズのチラシに変更し、都筑区の外国人在住者向け情報支援ウェルカムキットに 600 部を同封した。今年度の増刷分の印刷費は、一般財団法人ルビ財団のご支援により、印刷費代を賄うことができた。

・実施日時 通年

・実施場所 都筑区役所

・従事者数 4 人

・受益対象者 主に未就学児を育てている外国籍の親子

・支 出 3,730 円



↑都筑区の外国人在住者向け情報支援ウェルカムキットに子育て情報冊子 OYACO (おやこ) のチラシを同封

イ 多文化共生協働事業

・内 容

外国出身者を講師とした図書館での英語の読み聞かせや多言語おはなし会の企画運営を中心に、今年度は、美術館、中学校、大学、地域企業と協働先が広がった。2022 年以來実施している横浜市民ギャラリーあざみ野の在住外国人来館促進事業となる外国出身の親子向けのイベントの広報や当日の通訳翻訳サポートも継続。翻訳面では、ユニバーサルツーリズムを題材にした絵本「ほんとうにだいじょうぶ？」の多言語翻訳の依頼があり、英語とポルトガル語を担当した。また、2021 年度から継続している都筑区子育て支援拠点ポポラとの協業は、子育て支援センターの多文化環境の整備として、世界の文化を伝える「チルコロ・カルチャー」を開催。当法人のラトビアとナイジェリア出身のメンバーが文化展示に協力するほか、展示期間中には、ラトビア・ダンスやナイジェリアの巻き布で子どもをおんぶするワークショップを 4 回開催し、「子育て」という共通のテーマで多文化の親子が交流を深めた。さらに横浜市子ども・子育て支援事業計画のパブリックコメントに向けて、7 月に共催で外国人の子育てグループトークを

開催し、外国出身者 20 名の声を横浜市こども青少年局へ届けることができた。

- ・実施日時 年間 29 回
- ・実施場所 中野東図書館（東京都中野区）、南台図書館（東京都中野区）、野方図書館（東京都中野区）、大井図書館（東京都品川区）、南大井図書館（東京都品川区）、八潮図書館（東京都品川区）、羽田図書館（東京都大田区）、山内図書館（横浜市青葉区）、都筑図書館（横浜市都筑区）、港北図書館（横浜市港北区）、神奈川図書館（横浜市神奈川区）、都筑区多文化・青少年交流プラザ（都筑マイプラザ）、ノースポートモール、都筑区子育て支援拠点ポポラ、ポポラサテライト（横浜市都筑区）、物語のアトリエ（東京都国分寺市）、東洋大学ライフデザイン学部（東洋大学赤羽キャンパス）、早稲田大学創造理工学部（西早稲田キャンパス）、神奈川大学附属中学校（横浜市緑区）、横浜美術館（横浜市西区）、横浜市民ギャラリーあざみ野（横浜市青葉区）、損害保険ジャパン株式会社横浜支店（横浜市中区）、ポッシュ株式会社（横浜市都筑区）
- ・従事者数 17 人
- ・受益対象者 市内、県内外の児童、一般市民など のべ 1,026 人
NPO、図書館、大学、美術館、企業など 14 団体
- ・支出 851,541 円



↑横浜美術館での横浜トリエンナーレアクセスプログラム ↑ポッシュ株式会社での防災ワークショップ

ウ コミュニティ活性化事業

・内 容

ズンバやキッズヨガの資格のあるメンバーが親子で週末に体を動かす時間を持った。また、ネイチャーゲームの資格のあるボランティアによる自然あそびの会も親子で秋の自然にふれる良い機会になった。毎年恒例のハロウィーンイベントほか、消防署見学、花見ピクニックなど、親子で楽しむ企画をボランティア主導で実施した。

- ・実施日時 通年
- ・実施場所 都筑中央公園、都筑消防署、かけはし都筑（横浜市都筑区）、美しが丘公園（横浜市青葉区）、SGS ジャパン研修室（横浜市保土ヶ谷区）
- ・従事者数 7 人 ・受益対象者 一般市民 228 人
- ・支出 41,408 円



↑ハロウィーンイベント



↑親子で消防署見学